

2026 年 4 月 20 日

各 位

会 社 名 株式会社しずおかフィナンシャルグループ
代 表 者 名 取締役社長 柴田 久
(コード番号 5831 東証プライム)
問 合 せ 先 経営企画部長 松下 英人
(TEL 054-345-9161)

第 2 次中期経営計画策定のお知らせ

しずおかフィナンシャルグループ（取締役社長 柴田 久）では、2026 年度から 2028 年度までの 3 年間の計画期間とする第 2 次中期経営計画を策定しましたので、概要をお知らせいたします。

記

1. 名 称 Xover2.0 ～ともに、未来へ

2. 計画期間 3 カ年（2026 年度～2028 年度）

3. ビジョン

- ・第 2 次中期経営計画では、ステークホルダーとともに地域の成長に貢献する「10 年ビジョン」を掲げるとともに、価値共創の実現を目指す「第 2 次中期経営計画ビジョン」を策定しました。

➤ 「10 年ビジョン」

しずおかフィナンシャルグループとステークホルダーの成長が共鳴・循環する状態

➤ 「第 2 次中期経営計画ビジョン」

地域とともに未来をつくり、成長を続ける価値共創企業グループ

～私たちは地域と一緒に考え、解決し、ともに成長します

4. 計画の考え方

- ・「金利のある世界」の到来やAIの急速な進展など、地域およびしずおかフィナンシャルグループを取り巻く経営環境は目まぐるしく変化しています。
- ・こうした不確実性の高い経営環境下においても、ステークホルダーとの関係性をさらに深めながら、地域とグループ双方の持続的成長を実現し、地域の豊かさに貢献し続けられる企業グループであるためには、経営戦略の抜本的見直しが必要と判断しました。
- ・また、2025年3月期に第 1 次中期経営計画の利益目標を達成したことを踏まえ、当初5カ年として策定した同計画を3年で前倒して終了し、第2次中期経営計画を策定したものです。

5. 戦略

(1) 3 つの基本戦略

①共創・成長・挑戦

- ・事業領域を「共創・成長・挑戦」の 3 つに区分します。それぞれの領域に応じた戦略を展開するとともに、経営資源の最適配分および組織体制の構築を進めます。

- 共創領域：静岡県および隣接地域で共創に基づいた経営基盤を構築するマーケット
- 成長領域：首都圏・海外を中心に市場成長性の取り込みによる企業価値向上を目指すマーケット
- 挑戦領域：既存の枠組みを超えた新たな収益ドライバーの創出が期待できる分野

②トランスフォーメーション 2.0

- ・第 1 次中期経営計画で進めたデジタル人財育成や業務効率化、拠点機能の見直しをさらに発展させ、企業体質や業務運営の改革を加速します。
- ・大胆なシステム投資により、戦略を迅速かつ確実に実現できる経営体制を目指します。

③コーポレートコミュニケーション

- ・ステークホルダーとの価値共創を促進するため、情緒的価値に着目した対話・情報発信を通じたファンづくりを推進するとともに、コーポレートガバナンスの強化に取り組みます。

(2) 基本戦略の実現に必要な基盤

①人的資本経営

- ・経営戦略と処遇の連動強化、グループ役職員のエンゲージメント向上、プロ人財活用をはじめとする人財調達などに積極投資を行い、一人ひとりが自分らしく能力を発揮し、本質を追求できる組織を目指します。

②A I ネイティブ

- ・A I の活用を前提とした業務プロセスや意思決定の実現に向け、人財育成・組織体制整備・投資を一体的に推進し、企業全体の「A I ネイティブ化」を目指します。
- ・A I による業務の代替と補完により創出されたリソースは、地域のお客さまへの支援と、人的資本投資に戦略的に活用します。

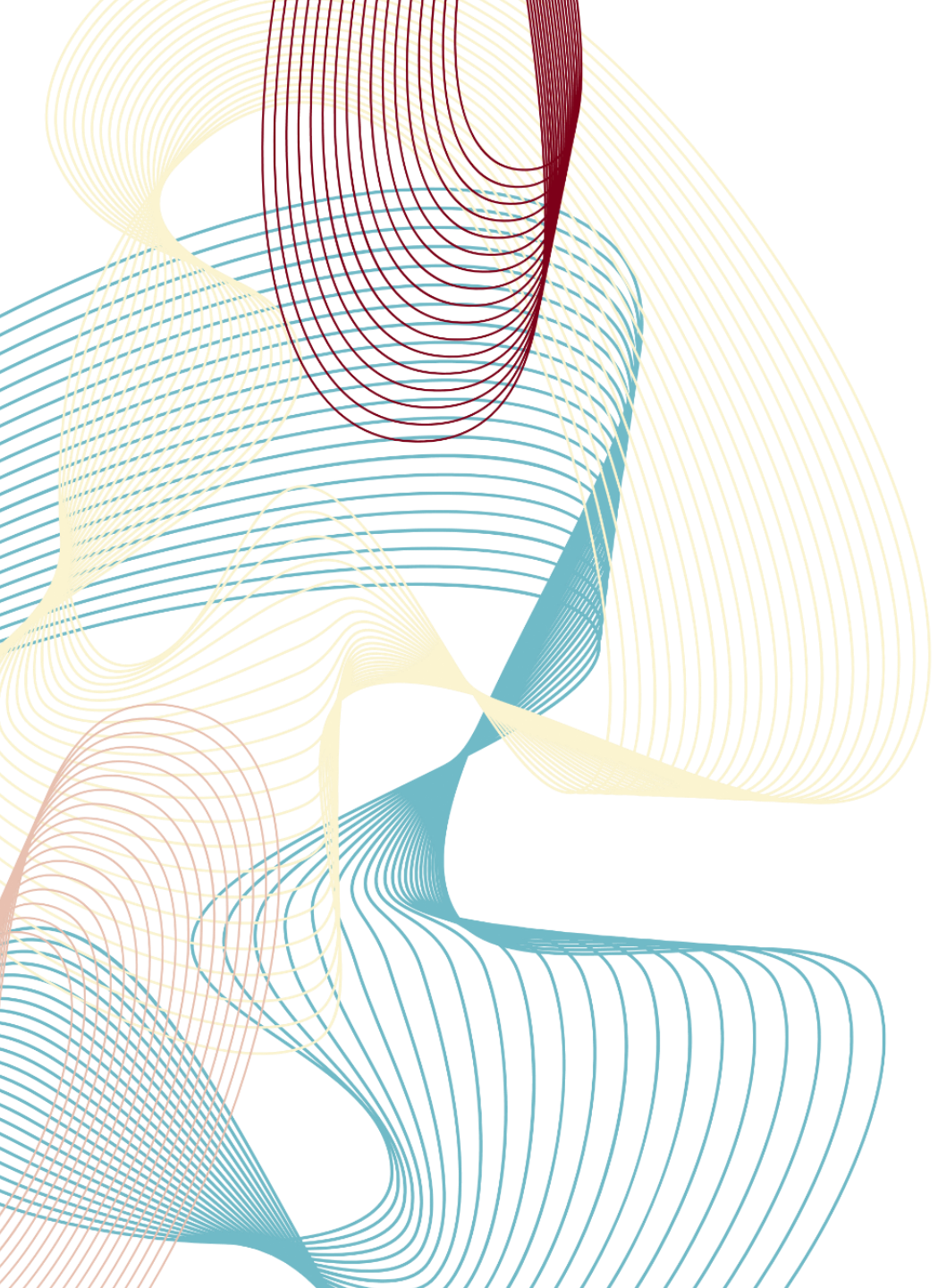
6. サステナビリティ指標

- ・社会価値創造と企業価値向上を測る指標として、引き続き、第 1 次中期経営計画で掲げたサステナビリティ指標を引き続き採用します。
- ・また、第 2 次中期経営計画より「事業性融資取引先の GHG 排出量」を新たに指標として追加します。

	指標	2028 年度目標
社会 インパクト	静岡県内人口の社会増減率	継続的に増加
	静岡県内実質総生産	持続的発展
	静岡県内の GHG 排出量削減率	2013 年度比▲46%(2030 年度)
エンゲージ メント	お客さまのグループ取引満足度	前年度比プラス
	グループ役職員のエンゲージメント	4.0 以上
	しずおかフィナンシャルグループの GHG 排出量 (Scope1、2)	カーボンニュートラル達成 (2030 年度)
	事業性融資取引先(※)の GHG 排出量	各年前年度比で削減
収益性	連結経常利益	1,700 億円以上
	連結 ROE (純資産基準)	9.5%程度
効率性	連結 OHR	47%程度
健全性	連結 CET1 比率	13%程度

※事業性融資取引先のうち GHG 排出量を計測していることが認められる先を対象とする

以 上



第2次中期経営計画の概要

2026年4月

第2次中期経営計画の概要

10年ビジョンと中計ビジョンの2つを設定。その実現に向けた基本戦略の実践によりKPIを達成し、企業価値と社会価値の最大化を目指す

Xover (クロスオーバー) 2.0 ~ とともに、未来へ

期間 2026～2028年度（3年間）

10年ビジョン

しずおかFGとステークホルダーの成長が共鳴・循環する状態

中計ビジョン

地域とともに未来をつくり、成長を続ける価値共創企業グループ

経営環境の変化を踏まえ、戦略・KPIを見直し

ステークホルダーの目指す状態

ビジョンの実現に向けた戦略

KPI

地域	関係人口が増加し、活気があふれている地域社会
お客さま	価値観・行動が変わっても、常にしずおかFGが寄り添う接点
未来世代	明るい未来・希望、サステナブルな社会
株主	株式価値の持続的な向上、ファン株主の増加
役職員	戦略・ミッション・行動・評価が一致 価値観・就労観に合わせた柔軟な働き方

基本戦略

- 1 共創・成長・挑戦**
事業領域を3つに区分し、成長戦略を展開
- 2 トランスフォーメーション2.0**
システム投資等（AI・DX）による変革の加速
- 3 コーポレートコミュニケーション**
ステークホルダーから長く選ばれる関係の構築

AI

あらゆる変革にAIを融合し、
「AIネイティブ」な体制を構築

人的資本経営

戦略を実現する
人財ポートフォリオの再構築

サステナビリティ指標

企業価値向上

社会価値創造

サステナビリティ指標

企業価値向上を目指す「財務目標」「エンゲージメント指標」と、社会価値創造の効果を計る「社会インパクト指標」で構成

			指標	前中計目標 (2027年度)	第2次中計目標 (2028年度)
企業価値向上	財務目標	収益性	連結経常利益	1,450億円以上	1,700億円以上
			連結ROE (純資産基準)	8.5%程度	9.5%程度
		効率性	連結OHR	50%程度	47%程度
			連結CET1比率	13%程度	13%程度
	エンゲージメント指標		お客さまの グループ取引満足度	前年度比 プラス	前年度比 プラス
			グループ役職員の エンゲージメント	4.0以上	4.0以上
			しずおかFGの GHG排出量 (Scope1,2)	カーボンニュートラル 達成 (2030年度)	カーボンニュートラル 達成 (2030年度)
			NEW 事業性融資取引先※の GHG排出量	—	各年前年度比で 削減
社会価値創造	社会インパクト指標		静岡県内人口の 社会増減率	継続的に増加	
			静岡県内実質総生産	持続的発展	
			静岡県内の GHG排出量削減率	2013年度比▲46% (2030年度)	

コミットする指標

引き続き
目指す指標

※ 事業性融資取引先のうちGHG排出量を計測していることが認められる先を対象とする